

川崎市高津区における地域学習教材の提案

—謎解きブラタカツ・謎解きブラタカツ PRAT2 の作成と検証—

21318044 長東 美緒  
指導教員 葉袋 奈美子准教授

高津区 謎解き 教材作成  
地形 歴史 防災

1. 研究の目的と背景

戦後の経済成長に伴う社会環境の変化により、東京圏の人口は現在も増加を続けている。今回の対象地である川崎市高津区もその地域に移り住んで間もない人々、また地域と積極的に関わりを持たない人々が増え、住民と地域との関わりが希薄化が進んでいる。本研究では、川崎市高津区の溝の口駅を中心とした地域学習教材を提案する。歴史ある街に古くから住む住人と、新たに高津区周辺に住み始めた新住民との交流を促進し、地域の魅力を発見すること、住民が地域への理解を深められるような教材を開発し、作成した教材を基に効果の検証を行う。

2. 研究方法

今回の調査では体験型謎解きゲームを用いた地域教材の作成とその実施、アンケート調査を行う。2016年3月19日に行われた高津区の防災イベントにて「謎解きブラタカツ」を実施し、高津区広報誌にて参加者を募り同年8月3日に「謎解きブラタカツ PART 2」(以下PART 2と表記)を開催した。謎解きブラタカツでは NORMAL 版と EASY 版の2種類、PRAT 2 では学習指導要領を踏まえて対象を小学校中学年以上に絞り冊子を作成した。

3. 謎解きの有効性

本研究において使用する体験型謎解きゲームとは、街やビルなどの広い場所を利用して、範囲内に設置された謎を解きながらゴールを目指すというものである。参加者が実際に街を歩いたり謎を解いたりするなど、参加者自身が一緒に体験しながらプログラムを進めることができるため謎解き完成後の達成感や参加者同士のコミュニケーションの増加などが期待できる。

4. 冊子の作成

第1回イベントでは防災、地理に関する内容を中心に、第2回イベントでは前2項目に加え、歴史、古地名、地図の読み取りなどの項目を基に謎を作成した。どちらの冊子にも謎解き冊子と別にヒントブックを作成し参加者に配布を行い、PART 2 では解答版の作成を行った。各ページにおける掲載項目と内容を表1に示す。

どちらのイベントでも高津区の地名や名所を「謎解き」形式で参加者に触れさせ、謎を解く過程で楽しみながら高津区の歴史や災害情報を学べるようにした。各項目に

則った謎の詳しい内容を表2に示した。いずれの謎も溝口周辺を歩き回ったり冊子を読み込むことで解くことができる。

表1 掲載項目

種類	ページ	歴	図	防	名	形	内容
N	1~4	●	●	●	●	●	高津区に関する謎と高低差・歴史の掲載された地図
E	1~4	●	●	●	●	●	高津区に関する謎と防災に関する知識の掲載
2	1~4	●	●	●	●	●	高津区内の様子を確認させるための写真を掲載
	5~8	●	●	●	●	●	高津区内の高低差・歴史・避難所等を表した地図の掲載
	9~12	●	●	●	●	●	高津区や周辺の歴史に関する情報の掲載
	13~16	●	●	●	●	●	謎解きの導入と地名、歴史に関する謎の掲載
	17~20	●	●	●	●	●	歴史・防災に関する謎と地名に関するTRY等の掲載
	21~24	●	●	●	●	●	防災・歴史・地名に関する謎の掲載と謎解き解答欄
25~28	●	●	●	●	●	謎解き解答欄と解答に関する情報の掲載	

N…NORMAL E…EASY 2…PART 2  
歴…歴史 図…地図 防…防災 名…地名 形…地形  
表2 各項目に関する謎の概要

項目	謎の具体例
歴史	高津区の有名な貝塚に〇〇〇〇貝塚があるね！ 答え：しばくち
地図	地図の上で東西南北を教えてください番号は〇〇〇〇番号… 答え：ほうい
防災	溝の口駅近くの応急給水拠点の一つに〇〇〇かわさきがあるよ！ 答え：てくの
地名	すごい坂道だろう！ここは〇〇〇〇〇と呼ばれているんだ！ 答え：うさぎざか
地形	駅の周辺には多摩川と二ヶ領用水と〇〇〇川の3つが流れているね！ 答え：ひらせ

PART 2 は謎解きブラタカツの実施を踏まえて難易度の設定や場所の選定を行った。また暗記用チェックシートを用いるなど謎解きとしての工夫も凝らし、参加者がより楽しみながら地域について学べるようにした。

解答は橘樹官衙遺跡群に設定し、謎解き終了後に参加者に渡す「達成カード」に橘樹官衙遺跡群までのアクセス方法を記載した。参加者が自発的に橘樹官衙遺跡群に足を運ぶ事を期待する。

謎解きを作成するにあたって溝の口駅周辺の調査を行った。参加者が実際に足を運ぶ場所の選定は看板の有無や歴史的な場所であるかに加え、謎の作りやすさなど冊子を作るうえでの観点から行う。PART 2 には溝の口駅周辺の他にも高津区内の歴史的な場所についての名称や歴史に関する情報を載せ、幅広い知識の提供を目指した。また「豆知識」「TRY」といった項目を作成し、事後学習を行うように促す。表3はそれぞれの問題の内容と期待する効果についてまとめたものである。

表3 TRY/豆知識の内容と狙い

	問題内容	期待する効果
TRY①	区内の歴史的な場所の調査	地域への理解と、地図や資料を
	地図へのインプット	効果的に活用し調べたことを表現する力を育む
TRY②	子母口塚に関する調査	文化財の場所と、その地理的環境の理解
TRY③	高津区内の遺跡の調査	区内の歴史的文化的遺産の存在・価値を見出す
TRY④	溝の口駅周辺の今昔	地図の読みとりと昔の土地の使われ方を学ぶ
TRY⑤	地図記号に関する知識	地図を読み込む力を育む
TRY⑥	古地名の調査	古地名と災害の関係について知り、
	地域の地名紹介地図	調べたことを表現する力を育む
TRY⑦	久本横穴墓群に関する調査	久本横穴墓群の場所とその歴史、地理の理解
TRY⑧	橋樹官衙遺跡群の過去、現在	国史跡の場所と歴史、その地理的環境について
豆知識①	防災用語に関する知識	災害避難時の心得を身に付ける
豆知識②	地名と地形の関係に関する知識	古地名と災害の関係について深く知る
豆知識③	ハザードマップに関する知識	自分の住む地域の災害情報に興味を持つ

## 5. 効果の検証

### 5-1 謎解きプラタカツ —防災・地理に関する教材—

アンケート有効数は82票で、謎解きに取り組んだことによって新たな発見があったと回答したのは全体の72%、高津区内の地形や方位、古地名を意識できたのは87%と、殆どの参加者が高津区について新たな視点で学ぶことができた。(表4)

表4 参加者の意識に関するデータ

	EASY	NORMAL	全体
新たな発見があった	68%	77%	72%
地形や方位、古地名を意識できた	87%	86%	87%

具体的に意識したことはNORMAL版、EASY版共に“地名”が最も多く、謎策定において地域を意識させるためにした工夫が功を奏したといえる。また、日頃から地域交流がない参加者は地域の昔の土地の使われ方や生活の様子についての情報に触れる機会が少ないという結果が得られた。しかし今回の謎解きに取り組むことによって、それらの殆どが高津区の地形や方位、古地名等を意識することができたと回答しており、この教材が地域の情報収集に有効だと考えられる。

自由記入欄では謎解きが楽しかったという感想が最も多く、次に「自分の住んでいる地域のことに興味をもった」という声が挙げられ、今回の謎解きプラタカツは地域への意識を高めることにつながったといえる。長年高津区に住んでいるものの知らない問題があったと驚く参加者や今回の謎解きにより古地名とそれに関連する過去の災害について思い出す高齢者など、様々な楽しみ方をする参加者が見受けられた。

### 5-2 謎解きプラタカツ PRAT2

#### —防災・地理・歴史・古地名に関する教材—

アンケート有効数は47票となった。大人に関するアンケート結果から、参加者の多くが歴史に興味を持っていることが分かった。また、居住歴が10年以上の参加者の多くが地域に関する疑問を持っており、長くその地域

に住んでいたとしても知らないことや新しい発見があるということが分かる。アンケートには歴史などに関する疑問の他に、防災に関わるものも含まれており、より生活に密着した視点から謎解きに参加していたと考えられる。また謎解きを通じた地域学習に強い興味を示していることがわかった。(表5)

また小学生の探究心に関する感想を表6にまとめる。高学年になるにつれ広域な視点での疑問を持っていることから、各学年に応じた楽しみ方ができていたと考えられる。今までの知識に付加した発見をしたりTRYに関連する疑問を持った参加者も多く、謎解きをとおして自発的に学習するきっかけを作れたといえる。

表5 居住歴の長い参加者の感想 表6 児童の探究心に関する感想

10年以上	学年	自由回答
定期的に開催してもらえると有難い	1年	馬坂・瓦坂の名前の由来
歴史と防災の関係性について知りたい	3年	橋樹官衙遺跡群について知りたい
昔の溝の口の姿はどんな様子だったのか	5年	昔の人々の暮らしについて
自宅近くの応急給水拠点の場所を知りたい	6年	その他の動物の名前がつく場所について

今回のアンケートでは参加の動機として大人・子どもともに「謎解きに興味があった」という回答が最も多く、年齢にかかわらず謎解きという手法が地域学習への参加につながったと感じた。次いで大人は「古地名に興味があった」、児童は「自由研究の材料にしたかった」という結果になっており、小学生にとって楽しみながら学習できることが重要であるということがわかる。また公園内のベンチに座って冊子に夢中になる親子や友達と道の端に座り込んで謎を解くなど、熱心に冊子に取り組んでいる参加者の様子を見ることができた。

## 6. まとめ

今回の地域学習教材はほぼすべての参加者にとって高津区内の地形や古地名、歴史など区にまつわる事柄に興味を抱くきっかけとなった。このことから謎解きを使った一連の取り組みは、年齢や性別に関わらず楽しみながら歴史や地名・地形等を知る方法として有効であった。このような取り組みを機に、親子間や近所の人々とのまちに関する会話や地名看板等への興味の増加などに期待したい。また自宅近くでの謎解きや定期的な開催を望む声も多く、その他の地域でも教材の作成を推進することが今後の課題であるといえる。

#### 主要参考文献

- ・小学校学習指導要領、平成20年7月25日、東京書籍株式会社発行
- ・高津区制40周年記念誌たかつひとまち記憶、2012年12月14日、川崎市高津区役所発行
- ・川崎の町名、平成3年3月31日、日本地名研究所編集、川崎市発行
- ・川崎市高津区久本横穴墓群発掘調査報告書、西暦1996年2月29日、後藤喜八郎他2名、久本横穴墓群発掘調査団編集
- ・神奈川県川崎市橋樹官衙遺跡群の調査、平成26年7月30日、川崎市教育委員会発行
- ・わたしたちのまち、昭和50年1月20日、川崎市立高津小学校発行
- ・川崎地名辞典、平成16年4月1日、日本地名研究所編、川崎市発行